

平成29年8月16日
西部農林振興センター益田事務所農業普及部

標題 水稲有機栽培ほ場で「田んぼの生き物調査」開催される！

(ダイジェスト)

益田市真砂地区では、生活基盤である「農業」を地域づくりの基軸ととらえ、「食育」にまで広げた活動を行っています。

7月29日(土)に真砂地区内外の子供たちを対象とし、「田んぼの生き物調査」が開催されました。親子連れや関係者約20名が参加し、有機栽培の水田に入って生き物の調査を行いました。

益田市真砂地区では、「公民館・学校・地域商社」の協働により、それぞれの特徴を活かしながら、地域運営の仕組みづくりのための活動をしています。また、その活動の一環として、「真砂の食と農を守る会 大地」が中心となり、食育活動に取り組んでいます。

この会の主催で真砂地区内外の子供たちを対象として、7月29日(土)に「田んぼの生き物調査」が開催されました。「真砂地区の自然はどんなにきれいなのか」、「田んぼにはどんな生き物がいるのか」、「田んぼの中は面白い」ということを子供たちに知ってもらうため、実際の有機栽培の水田に入って生き物の調査を行いました。

当普及部はこの活動に協力し、農業技術センター資源環境研究部から角研究員を講師に招き、生き物調査の方法や子供たちがつかまえた田んぼの生き物について教えてもらいました。大きなガムシや、ゲンゴロウ、ドジョウ、メダカ、ミズカマキリ、ヤゴ、コモリグモ、マツモムシ、トノサマガエルなど様々な種類の生き物をつかまえて、調査することができました。

この活動には、地域の担い手である集落営農法人や、他県からIターンし産業体験(農業)を行っておられる方も参加し、地域を盛り上げています。田んぼの生き物調査を通じて、子供たちが自然を楽しみながら、田んぼや水稲栽培(特に水稲有機栽培)、水田に暮らす生き物に興味をもってもらい、そこでできたお米や農業生産、農村への関心を高めていってほしいと思っています。

